

第2学年3組 道徳学習指導案

平成25年 9月26日(木)

授業者 教諭 若林 尚子

場所 2年3組 教室

男子 16名 女子 19名

1 主題名 集団生活の向上 内容項目4 - (4) 集団を支える一員として

2 資料名 「明りの下の燭台」(副読本)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目4 - (4)は「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める」をねらいとしている。集団の中での役割と責任とは、集団の目標を達成する上で重要であり、それが果たされたとき集団は向上し、個人のより良い生き方へとつながっていくのである。各人が集団の成員として協力しつつ個々が役割と責任を自覚し、責任を果たしていくことで集団が向上していくことをねらいとしていく。

生徒たちは、毎日生活していく上でさまざまな集団に属している。集団生活で大切なことは、自分の属する集団のあり方を十分に理解し、生徒一人一人が与えられた役割と責任を果たすことが重要である。そして、その責任を果たすことが集団としての向上につながることを理解し、与えられた仕事に前向きに取り組み、喜びを見出すことが大切であり、ねらいとする価値だと捉えている。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、全体的に学級の係や与えられた仕事は熱心に行うことができる。また、部活動でも、3年生が引退し、各部においては後輩をまとめ引っぱっていく立場になり、自覚をもって取り組んでいる姿がうかがえる。中学2年生のこの時期は校内でも様々な集団に属し、それぞれの集団で中心的な役割を担っている。しかし、自我が確立され自分の考えが中心になりがちな時期を迎えている中学生にとって、自分が望む役割とは違った役割を負ったとき、自己中心的な見方しかできなくなることもある。時には不満で、自分の責任を見失ってしまうこともある。この様に誰もが持っている人間的な弱さを乗り越え、責任を果たしていくすばらしさを捉えさせる中でねらいとする価値にせまりたい。生徒一人一人が役割を果たすことで集団が成り立っていることに気付き、自分勝手な考え方や行動を自制しながら、実際の生活に活かすことが大切である。本授業を通して、自分自身を見つめ直して「自分はどうするべきなのか」を考える機会とし、集団生活の中での自分の生き方や行動を考えさせたい。

(3) 資料について

本資料は、1964年東京オリンピックでの優勝に貢献した、日本女子バレーボールチームを支えたマネージャーの献身的な姿を描いたものである。選手を陰で支え続けた主人公の生き方は感動的であり、集団での役割の大切さを考えさせることができる。

まず、第1の話題として、9人制から6人制になったため選手として活躍できなくなってしまい、マネージャーをやってくれないかと監督から頼まれた時の、「マネージャーなんて絶対に嫌だ。」「選手としてプレーをしたい。」という主人公の気持ちに共感させたい。

次に、第2の話題として、「縁の下の力持ち」「世間に一つも知られない」「チームを強くするのはお前の肩にかかっている」という監督の言葉を深く考え、「マネージャーなんて嫌だ」「レギュラーとして活躍したい」というマネージャーを断りたいという気持ちと、「バレーボールはやめたくない」「チームのために自分ができることをやってみよう」というマネージャーを引き受けてみようという気持ちの間で、泣きながらじっと座り、思い悩む主人公の葛藤を、役割演技を通して捉えさせたい。また、小グループでの話し合いを通し、主人公の気

持ちを更に考え、何故主人公はマネージャーを引き受けたのか、クラス全体での討論から考えさせたい。

そして、第3の話題として最後に4年もの長い間、苦しい気持ちを一言も言わずに献身的に働いた鈴木さんの姿から、自己の役割を受け止め責任を持って最後までやり遂げたことから、集団の一員としての役割を果たすことの大切さ、さらに集団の向上につながっていったことを捉えさせたい。

また、マネージャーとして働くことを決心した苦悩、責任を果たした充実感や喜びは、生徒の共感を呼ぶものとする。縁の下の力持ちとして努力した鈴木さんの行動を通して、生徒の日常生活の中での自分の役割を考えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。

4 本校の研究主題とのかかわり

< 研究主題 >

「豊かな心を育て、よりよく生きようとする生徒の育成」

～ 言語活動を充実し、心のつながりを深める ～

道徳の時間の学習では、中心的な資料が生かされ、生徒の体験や資料に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習活動の中心となることが多い。生徒は書く活動を通して自分自身のものの見方、考え方、感じ方を確かめ、それをもとに今までの自分を振り返ることができる。また、他者と対話することを通して、自分の意見と比べ、同じ点や相違点を知り、さらに深く自己との対話も生まれ、自らの道徳的価値観やそれに基づいた人間としての生き方に自覚を深め追求していくことを促すことになる。そこで、以下の手立てを取りながら言語活動を充実させ、話し合い活動を通して考えを深め、人間としての生き方を自覚させるよう、ねらいを達成していきたい。

ねらいとする価値についての考えを深めるための工夫

(1) 資料提示の工夫

ア 場面絵や写真の活用し、思考を促す。

イ アンケートの活用。

(2) 役割演技

ア 役割演技を取り入れ、自分自身の問題として捉えさせ、道徳的価値への思考を深める。

(3) 話し合いの工夫

ア 意図的な小集団での話し合いをさせる。

イ 小集団での話し合いを発表させる。

ウ 全体での話し合い(討論)をさせる。

エ テーマにそった話し合いをさせる。

(4) 書く活動の工夫

ア 振り返りのワークシートを使い、自己の生き方をじっくりと見つめさせ、道徳的実践意欲を高めさせる。

5 事前指導

・各自の、学級や部活動における、役割と責任について振り返る。

6 ねらい 集団の一員としての役割を果たし、集団生活の向上に努めようとする心情を育てる。

7 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 言語活動を充実させる手立て 評価
導入	1 写真等を基に、自由に発表する。	・あの聖火台の時のオリンピックだ。	・話の世界に入りやすくし、ねらいとする価値の方向付けをする。 場面絵を活用し、思考を促す。 【(1)ア】

<p>展 開</p>	<p>2 「明りの下の燭台」を読み、話し合う。</p> <p>監督からマネージャーを頼まれた時、鈴木さんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>泣きながらじっと座っている鈴木さんはどんなことを考えていたのでしょうか。</p>	<p>登場人物・・・主人公 鈴木恵美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピックチームのマネージャー。 ・はじめはレギュラーを目指していた。 <p>監督</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9人制から6人制に変わったばかり。 ・東京オリンピックで女子バレーチームが金メダルを取る。 <p>・マネージャーなんかは絶対に嫌だ。</p> <p>・私はプレーをしようと思って入ってきたのだ。</p> <p>・選手として活躍したい。</p> <p>・ショックだ</p> <p>・マネージャーなんて嫌だ</p> <p>・プレーをしようと思って入ってきたんだ。</p> <p>・マネージャーをやりたいわけではない。</p> <p>・マネージャーなんてできない。</p> <p>・もっと練習すればレギュラーになれるのでは・・・。</p> <p>・6人制に変わったしもうだめなのではないか・・・。</p> <p>・自分はもうレギュラーにはなれないのかも・・・。</p> <p>・チームのために選手として尽くしたい。</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <p>・バレーボールをやめるのは嫌だ</p> <p>・レギュラーにはなれないならマネージャーでもいいかな。</p> <p>・仲間と離れたくはない。</p> <p>・監督が頼んでいるのだし、やってみようかな。</p> <p>・バレーボールへの思いは同じだから、マネージャーをやってもいいかな・・・。</p> <p>・チームのためになるのかな。</p> <p>・チームが強くなるのはうれしい。</p> <p>・チームにはマネージャーが必要なんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が把握しやすいように、短冊等を用い、主人公の確認と条件・状況をおさえる。 <p>・生徒の反応を確かめながら臨場感のある範読とする。</p> <p>・選手として活躍しようと思って入ってきたのでどうしてもマネージャーは嫌だという気持ちに共感させる。</p> <p>・役割演技を通して、マネージャーを引き受けるか、断るか、葛藤する主人公の心の内をじっくりと考えさせ、生徒の心を揺さぶる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>役割演技を通して自分の問題として考えさせ、自分の道徳的価値観を明確にする。【(2)ア】</p> <p>主人公の気持ちを深く考え、表現できたか。</p> </div> <p>・「縁の下の力持ち」「世間に一つも知られない」「チームを強くするのはお前の肩にかかっている」というキーワードを押さえ、集団の一員として自分の役割に気付き、チームの向上を考える鈴木さんの姿を捉えさせる。</p> <p>・マネージャーとして役割を果たしていくことが、チームのためであり自分の役割であると考えた鈴木さんの気持ちに気付かせる。</p>

	<p>補) どうして鈴木さんはマネージャーを引き受けたのでしょうか。</p> <p>鈴木さんは4年間、苦しい気持ちを一言も言わなかったのは何故でしょう。</p> <p>3 今日の学習を振り返り、自己の在り方を見つめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームのために自分のできることをやってみよう。 ・チームのために頑張ろう。 ・チームが強くなれば私もうれしい。 ・チームのために貢献することが私の役割なのかも。 ・コートに立てなくても、戦うことに変わりはない。 ・金メダルを取るまで、このチームにいて何か力になりたい。 ・マネージャーとして力を尽くすことが、今、私がチームの一員としてやるべきことだ。 ・選手はもっと苦しい。 ・自分が決めて引き受けたので責任を果たしたい。 ・大切な仲間と同じ夢(金メダル)を持っているから。 ・マネージャーが愚痴を言えば、選手へ影響を与えてしまうから。 ・選手はプレーをすること、自分は選手のために仕事をするのがチームの役割だ。 ・文句を言って自己中心的にならない。 ・自分に与えられた仕事を最後まで責任を持ってやること。 ・それぞれが集団のために何らかの仕事があり、それを果たすことで集団が成り立ち、向上していく。 ・どんな仕事でも役割を果たすことがよりよい集団をつくっていく。 ・協力し合って生きることが大切。集団としてやるべきことをやったほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の話合いを通して、チームのためを思う主人公の心の内を考える。 ・全体での討論を通して、どうして主人公はマネージャーを引き受けたかについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小集団で意見を聞きあわせる。 【(3)ア】 小集団での話合いを全体の前で再現する。【(3)イ】 全体で更に話し合わせる。【(3)ウ】 お互いに表現しあうことで他者を理解し、自己理解を深めながら価値の自覚が深まったか。(発言内容) 自己の価値が明確になったか。(発言内容) 他者の意見を聞き価値の自覚が深まったか。(発言内容)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ考えを述べ、質問したりしながら、同じところ、違うところを明確にさせる。 ・小集団での話合いを全体の前で発表させる。 ・自分の考えの根拠を明確にする。 ・自分の価値観を明確にさせてから、学級全体でさらに討論する。 ・自己の役割を受け止め、責任を持って最後までやり遂げたことに気付かせ、集団の一員としての役割を果たすことの大切さを捉えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>書く活動を通し、自己の生き方をじっくりと見つめさせ、道徳的实践意欲を高めさせる。【(4)ウ】 出来ていない自分の姿に気づけたか(記述内容) 自分の生き方として捉えられたか。(記述内容)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の生き方を通して気づいたことや、今までの自分の在り方で気付いたこと等を机間指導しながら把握する。
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞き、ねらいとする価値を心に留める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値を心の中で深められるように余韻を残して終わるようにする。

8 評価の観点

- ・話し合いがねらいに即して行われ、自分の考えを发表或し、友達の考えを聞いたりする中で、自分の考えを深めることができたか。(発言・観察)
- ・集団の一員としての役割を果たし、集団生活の向上に努めようとする心情を高めることができたか。(発言・観察・ワークシート)
- ・言語活動を充実させる手立ては、ねらいに迫る上で効果的であったか。(役割演技、話し合い)

9 事後の指導

- ・教室の道徳コーナーに意見や考えを提示し、仲間の意見を認め合えるような環境づくりをする。
- ・関連的指導の中で生徒のよさをとらえた評価をする。

10 板書計画

場面絵	集団を支える一員として 明りの下の燭台
鈴木恵美子	監督
9人制から6人制	東京オリンピックで女子バレーチームが金メダルを取る
マネージャーをやってくれと頼まれた時	マネージャーなんて嫌だ。
選手として活躍したい。	ブレイをしようと思って入ってきたのに。
泣きながら長い時間座っていた時	マネージャーを断る
ショックだ。	マネージャーなんてやりたくない
マネージャーなんてできない。	選手として活躍したい。
練習すればレギュラーになれるかも。	もうレギュラーにはなれないのか。
引き受ける。	バレーボールはやめたくない
仲間と離れたくはない。	レギュラーになれないならやろうかな。
チームのためにやろうかな。	バレーにかける思いは同じ。
戦うことに変わりはない。	チームの力になりたい。
4年もの間苦しいことを何一と言わなかったのは何故か	自分が引き受けた仕事は、最後までやり抜こう。
私の役割は、マネージャーとして頑張ること。	大切な仲間と同じ夢がある。